



2025 - 26年度
会長 青山 圭一
幹事 島田 修

会長あいさつ 青山 圭一 会長

今日は辻さんの誕生日。びたり賞ということだが、2回連続を期待している。魚津西ロータリークラブとの合併問題が少し現実味を帯びてきているが当クラブの会員歴45年の重鎮ということで、ますますの活躍を願っている。



9月の国際ロータリーのテーマは「基本的教育と識字率向上月間」。日本ではあまりなじみがないが、本日はこのテーマにふさわしいゲストの黒部順子様においでいただいた。肩書は魚津市日本語教師で、外国人への日本語教育に取り組んでおられ、私の尊敬する女性の一人だ。

また、今月は「ロータリーの友月間」でもある。公共イメージ委員会から月に1度くらいはその内容を紹介してもらえればと思う。また小学生英語スピーチコンテストなど代表的な活動は本誌で掲載してもらうことも大切だ。



出席報告

3440回 14名 73.68%

3438回 メーカーアップ

愛宕君、渡辺君、釣谷君、吉森君

3438回 47.36%→68.42%

Happy Birthday



辻 浩君

きょうで74歳になります。びたり賞を3、4回やっています。もうちょっと仲間に入れて欲しいので、よろしくお願いします。

ニコボックス報告

青山圭一君 黒部順子様。本日はおいでいただきありがとうございます。

招待卓話 魚津市日本語教室代表 黒部順子様
「世界の中の日本語と富山の外国人」



私たちは日本語を母語として何の不自由もなく使っている。この母語は人口に比例する。以前は中国語が一番多かったが、人口増加が多いインドが23年に逆転した。日本は10位だ。日本語には絶対的な制約、ルールがない。英語でバラはroseだが、

日本語では薔薇、バラ、ばらなど漢字、カタカナ、ひらがながあり、当て字もある。表記も縦書き、横書きがありこれは他の言語にはみられない。また表現の特徴として敬語がある。日本は相対敬語といって社会的な距離や上下関係、外と内ではまったく違う。韓国は絶対敬語でどんな高い身分でも年上であれば敬語を使う。受け身の使い方も日本語は独特だ。ただ文法としては間違っていないので外国人には敬語や受け身表現は難しい。文末表現も「行く」、「行くね」、「行くか」、「行くでしょう」など色々あって最後まで聞かないと意味が分からない。英語は主語や目的語がはっきりしているのに比べ日本語は文脈の中から読み取らなければならない。主語が省略されることも多い。この難解な日本語は海外でどれくらい学ばれているか。2021年で141か国380万人。アフリカのいくつかの国を除けばほとんどの地域で学ばれている。多い国は順に中国、インドネシア、韓国、オーストラリアだが、インドネシアとオーストラリアは中等教育の第2外国語として日本語を必須にしていたからだ。外国人が日本語を学ぶ目的としては日本のソフトパワーの影響が大きい。アニメや漫画や芸術などへの関心が高く、アニメなどについては私も外国人から教えられるくらいだ。在留外国人も過去最多を更新している。富山県でも同様で、103か国23,785人。魚津市の外国人数は県内で8位で今年3月時点で598人。ベトナム、中国、フィリピン、ブラジル、インドネシア、パキスタンの順だ。日常会話が話せるようになった外国人向けに活動クラスがある。地域の人たちと一緒に活動して日本語によるコミュニケーション力を伸ばしていくものだ。外国人に伝えるための優しい日本語というものがある。「はっきり言う、最後まで言う、短く言う」、「分けて言う、整理して言う、大胆に言う」。これを続けていくことで伝える日本語ではなく伝わる日本語になる。

令和7年3月末: 598人		令和6年3月末: 324人	
1位 ベトナム	149人	1位 中国	149人
2位 インドネシア	121人	2位 フィリピン	121人
3位 中国	102人	3位 タイ	102人
4位 フィリピン	56人	4位 韓国	56人
5位 オランダ	35人	5位 インドネシア	35人
6位 タイ	31人	6位 ベトナム	31人

よいことのために
手を取りあおう



Rotary
Club of Uozu



2025 - 26年度
会長 青山 圭一
幹事 島田 修

会長あいさつ 青山 圭一会長



今日は魚津西ロータリークラブとの合併を相談するための臨時総会。皆さんの話を聞いたほうが良いと思って準備もしたが、そのつなぎ役をやっている川岸さんの話によると、

先方の動きがそんなに早くない。そのため今日は意見を少し伺うぐらいにしたい。私もせっかちな方だが慎重に事を運んだほうが良いと思っている。

出席報告

3441回 11名 52.63%

3439回 メークアップ 岩崎君、寺腰君

3439回 68.42%→78.94%

ニコボックス報告

西村敏信様 皆様お元気ですか！国勢調査の調査員になりました。

臨時総会議事録（抜粋）

青山会長 当初は合併問題について色々話をしようと思っていたが、そこまで至っていない。今日は川岸前会長から事の経緯を聞いてから皆さんの意見を頂戴したい。

川岸芳雄君 7月24日、魚津西RCの慶野元会長から合併に向けての提案があった。8月28日に当RCの臨時理事会を開き、臨時総会を開催し審議してはどうかということになった。西RCから9月9日の例会後に青山洋士会長から経過報告をします、ということだったがその後連絡はない。まず当クラブの今後の課題について相談をしたい。2027、28年度にガバナー補佐をださなければならない。16年度は元会長の野沢さんがなられた。26、27年度の会長は岩崎さんということで申し合わせているが誰がその幹事をするのか。また合わせて28年度の会長、幹事、ガバナーも決めなければならない。そうした中で西RCの合併で先走ると当クラブの問題が先送りになるので、まずは当クラブの体制づくりが先だろう。推測だが西RCは28年に創立60周年事業を実施するのではないかと。そうすると28年までは忙しい。また29年のガバナー補佐も西RCが出さねばならない。合併の話も正式ではないので

振り回されてはいけぬ。まずは当クラブのここ3年間の計画をどうするかが大事。

会長 岩崎次期会長の体制案はあるのか。

岩崎正人君 次期会長となるが、これまで会長が幹事を決めているのだと思う。心づもりはあるがその時になればお願いするつもりだ。西RCは60周年のタイミングで合併したらという話があるらしい。私と同時期に会長になるのは三浦さん、次が若林さん。若林さんの時に合併ということになる。そうすると正式合併になった場合、当クラブの会長がそのまま会長になるというのはいかがか。西と話し合いをするか合同で決定するプロセスを踏まなければならない。青山年度か私の年度の時に次期会長を決める合併プログラム委員会などを作って西のメンバーと決めていくプロセスをとったほうが良い。

会長 決まっていないものを前提にして準備しておくのは良くない。こちらはこういう予定だと決めておくべきだ。正式に話が来れば別だが、現状ではしっかり予定を作らなければならない。

川岸君 大事なものは合併を合意した上で、会長を誰にするかが筋で、西がこう考えている、ということでは対等合併にはならないし、今後はクラブ名や例会会場、事務処理とという問題も出てくる。まずは当クラブの次期、その次の会長、幹事を決めておくべき。

青山昌子君 合併というのは対等なのか吸収するのか。吸収となると入る側はすごい抵抗を感じるだろう。話が正式にならないうちは慎重に進めたほうが良い。

川岸君 西から合併という話が来たので共有した。当クラブは2610地区で4番目に古く、それを重んじるべき。過去の歴史から考えると対等合併はおかしい。合併するならクラブを止めるという人も出てくる。今後、西との合同例会がある。先方で会長人事などの話が進んでいるのに当方にそういう考えがなければ変な方に進む可能性もある。

会長 次期会長の次を決めるのはいつ頃なのか

川岸君 次の会長年度になる前、現会長が向こう3代まで決めると動きやすい。私の時は3年前に言われた。準備もスケジュールも組みやすかった。これは私の経験なので今後どうかは分からない。27年にガバナー補佐を受けなければならないが、この話が来る26年には次期、さらに次の会長、幹事が決まっていないと回答できないと思う。クラブは大事だが第1グループのことも考えなければならない。12月の総会まで3か月だがそれまでには決めたほうが良いのでは。

会長 そうなれば限られた人間ということになる。

岩崎君 会長が自分で考えてお願いをする場合や、理事会で意見を出し合って決める場合では違う。

会長 基本的には会員の思いだ。選択肢は多くない。誰が考えても一緒にしなければならない。